

「テモラウ」文と“请”構文との 日中翻訳規則について

譙 俊凱

キーワード：「テモラウ」、请、使役、恩恵利益、謙遜さ、日中翻訳

要 旨

本稿では、日本語の「テモラウ」文¹と中国語の“请”構文の意味を分析して、両者の共通点と相違点を見出す。両者の対応仮説を立て、実例で検証し、修正して日中翻訳の対応規則をまとめる。従来の先行研究では使役に主眼を置いて両者の対照を行うのに対し、本稿では、仕手への働きかけおよび恩恵利益が両者の対応に不可欠の要素であると主張する。なおかつ日中翻訳上、仕手に対する話し手の謙遜さも考慮に入れる。

1. はじめに

日本語の授受表現においては、「テヤル」「テクレル」「テモラウ」の授受補助動詞文に関する先行研究が多くなされ、豊富な研究成果が得られている。それに対し、授受表現に関する日中対照研究はそれほど多くない。特に、日本語の「テモラウ」と中国語の“请”との対照研究は管見の限り数が少ない。代表的な研究は以下の通りである。

まず、奥津敬一郎・徐昌華(1982)は、“请”を次のように分類している。(例文の番号は先行研究のものをそのまま使用)

(18) 1. 目的の“请”… NP1がNP2にV2させるために、NP2に請求する。

*1 本稿では、「てもらう」およびその待遇形式の「ていただく」を一括して「テモラウ」文と呼ぶことにする。ただし、「てもらえないか／ていただけないか」などの依頼モダリティの文は考察対象としない。

2. 結果の“請”… NPI が NP2 に請求して V2 させる。

(19) 1. 我請了他弹钢琴。

(私は彼にピアノをひくように頼んだ。)

2. 我請他弹了钢琴。

(私は彼に頼んでピアノをひいてもらった。)

「前者は単なる要求文であるが、後者は要求と使役を含む要求使役文とでもいうべきものである。…しかし、目的か結果かを示す標識は特にないので、いずれの解釈を取るかは結局文脈によるほかはない」と奥津・徐(1982)では指摘し、さらに「“請”が結果の“請”、つまり要求使役文であり、「てもらう」が派生的な謙讓使役文である場合、その使役文という一致点において両者に翻訳可能性が出て来る」と主張している。

楊凱榮(1987)は、「請」²は「強迫」とくらべて、X がむりやりに傲慢な態度で Y にある行為をするようにしむけるのではなく、低い姿勢で頼む場合に用いられる。日本語の「てもらう、ていただく」と対応することが多い」と述べている。(注：使役者を X、被使役者を Y とする)

(12) 我还欠一盅，喝完酒請大嫂热热的，酸酸的，辣辣的给咱们作三碗饭……。

(できましたら、もう一本お願いしたいですな。それから酢と胡椒をよくきかせたスープを三杯ほど用意していただきたいですな。)

また、王婉莹(1998)は、「請，劝」などは「要求動詞」であり、「せる・させる」のほかに、他の表現に対応する場合があると述べている。以下の「テモラウ」文を取り上げている。

⑯ 請领导研究一下吧！

指導幹部の間で研究してもらうとしよう。

*2 「請」はそのまま先行研究から引用したもので、「請」と同じであることをここで断っておく。

以上のように先行研究においては、語彙的意味と使役表現の関連から、「テモラウ」と“請”の対照がされている。それによって、使役の点のみで「テモラウ」と“請”が対応するはずだと思われるが、しかし、周知のように、「テモラウ」文において恩恵利益をあらわすのは特徴の一つであるということは多くの先行研究で指摘されている。また、中国語の“請”によって、相手に対して謙遜的な態度を表すことができるが、謙遜さと恩恵利益が同じものであるわけではないと思われる。従って、どういう場合に「テモラウ」と“請”との対応が成り立つかに関して、さらに検討する余地があると考えられる。本稿では、文レベルで、「テモラウ」文と“請”構文の意味と恩恵利益のあり方を対照しながら、両者の対応を明らかにする。研究対象として、「テモラウ」文と「N1 請 N2V」*3 の構造を持っている“請”構文(以下は“請”構文)との対照を展開していくことにする。

2. 「テモラウ」文と“請”構文との対応に関するコーパス調査

まず、現代日本語の「テモラウ」文と中国語の“請”構文との対応関係を調べておく。「中日対訳コーパス」からランダムに抽出した 200 例の「テモラウ」文について、「テモラウ」と中国語の表現との対応をまとめたものが表 1 である。

表 1 「テモラウ」と対応する中国語表現

「テモラウ」と対応する中国語の表現				「テモラウ」との対応なし（テモラウの先行動詞の意味と対応する）
请	让	希望	要	98
48	19	8	5	
托	求	使	拜托	
4	5	2	2	
找	叫	劳	麻烦	
2	1	1	1	
委托	允许	要求	指望	
1	1	1	1	
102				

*3 NI が“請”という動作の仕手、N2 が動作 V の仕手。

表1を見ると、「テモラウ」は対応する中国語の表現が16種あり、その中で、“请”との対応率をもっとも高く、102例の半数近くを占めていることが分かる。また「テモラウ」と“请”が対応する48例はいずれも「N1 请 N2V」という構造を持っていることが観察で明らかとなった。一方、“请”と対応しない「テモラウ」文が全体の三分の二以上を占めていることから「テモラウ」文と“请”構文との間に共通点がある一方相違点も多いと思われる。次節からは、主として両者の意味と恩恵利益のあり方から対照を行っていくことにする。

3. 「テモラウ」文の意味と恩恵利益のあり方について

「テモラウ」の意味に関して、松下大三郎(1930)は「テモラウ」文を「自行自利態」と名づけ、「己側から相手に働きかけて、その結果相手が何か事物や行為を己側に差し向けるわけであるから、己が働きかけ(自行)、その結果己が利益を受ける(自利)」という性質を持っていると述べられている。奥津・徐(1982)は、「テモラウ」の基本的な意味は単に利益的な行為の取得とすべきであると述べている。益岡隆志(2001)は、「受動型でもらう」構文は恩恵性の意味を強く帯びるが、「使役型でもらう」構文には恩恵性の意味はあまり色濃く出てこない」と指摘している。高見健一・加藤鉦三(2003)は、「～でもらう」は話し手や話し手が自分の視点を置く身近な人が、ある行為や事象によって利益を受けることを示す、受益表現であると述べている。これらの指摘をまとめると、先行研究には「テモラウ」の意味に恩恵利益がある点で一致しているが、その恩恵利益に対する解釈と分類が違うことが分かる。本節では、「テモラウ」文の恩恵利益を認めた上で、素性分析を通して、「テモラウ」文における恩恵利益に関わる要素を突き止めていきたい。以下の例文を見よう。

- (1) こうなったらもう、通信隊の野津大尉に紹介状を書いてもらって、宇部炭鉱へ直接交渉に行くべきです。(中日*4、下線は筆者による、以下同)

訳：如果要去，那就应该找通讯队的野津上尉，请他给开一个介绍信，直接到宇部煤矿去办交涉。

*4 本稿の例文は、特別の説明がない限りすべて「中日対訳コーパス」から抽出されたものである。

- (2) 「待ってくれ。山崎と七尾を入れ替えてもらおうか。」

訳：“等等。把山崎和七尾调换过来。”

- (3) あんたの軀にさわると、わいはお母はんに抱いてもらうような気がするのどす。

訳：碰到你的身体时，我就觉得自己被母亲拥抱一样。

- (4) 「受取ってもらわんと、仏さんが浮かばれません」と真顔になって云うのがある。

訳：“你如果不收下，菩萨就不会显灵啦！”有人认真地这么说。

- (5) 五年間も大村湾に駐在して、勝手にカジカの研究に没頭させてもらっている。

訳：五年时间里，他始终在大村湾安营扎寨，随心所欲地一头扎在杜父鱼研究上。

(1)では、話し手(側)^{*5}が紹介状を得るために、「野津大尉」に何らかの働きかけをした結果、「野津大尉が紹介状を書いてくれる」ということになることから、話し手が「野津大尉」の動作と関わっていることが分かる。話し手はその紹介状を持って炭鉱との交渉ができるので、「野津大尉」の動作から直接に恩恵利益を得て、「野津大尉」に対する感謝の気持ちも込められていると言える。この場合の利益は働きかけの結果であるために、「働きかけ直接利益」と仮に呼ぶ。この場合、「テモラウ」は「働きかけ」と「恩恵利益」とを同時に表していると考えられるため、話し手は働きかけの動作主であると同時に直接受益者でもある。

(2)では、「話し手」は聞き手に対して、「入れ替える」という動作をするように働きかけることを表す。また、「山崎と七尾を入れ替える」という事態の実現が話し手の希望と一致しているために、それを恩恵利益として話し手が受け止める。しかし、話し手があくまで「入れ替える」という動作に関与せず、間接的にその動作による結果を受けるために、「働きかけ間接利益」と仮に言う。

*5 話し手(側)とは話し手あるいは話し手が自分の立場を置く人を指す。以下統一的に話し手と称する。

(3)では、話し手が「お母はん」に対して働きかけ、「お母はん」がその働きかけを受けて話し手を抱くという意味が読み取れない。「テモラウ」によって話し手が「お母はん」から一方的な動作を受け、その動作から利益を得て、仕手に対する恩恵的感情を持っていることが表されていると考えられる。つまり、この利益は話し手の働きかけと関係なく、話し手が受動的に受けるものである。それは「抱いてもらう」を「抱かれる」に変えても恩恵利益が迷惑かニュートラルになる以外、意味が変わっていないからである。そこで、その利益を「直接受動利益」と仮に言う。この場合、話し手は動作の受け手であると共に、直接に恩恵利益を得る受益者でもある。

(4)では、話し手の働きかけで仕手が「受け取る」というわけではないことが分かる。また、話し手が「受け取る」という動作の受け手でもないため話し手と仕手が直接関係を持っていないと言える。ここにおける「テモラウ」によって、話し手が自分と関係ない動作から間接的に影響を受け、それを自分への利益として受け止めて仕手に対する感謝の気持ちを込めるということを表す。その場合の利益を仮に「間接受動利益」と称する。

(5)では、「没頭する」があくまで話し手の一方的な動作であることが「勝手に」によって示唆されている。それにも関わらず、わざわざ「没頭させてもらう」を使うのは「サセテモラウ」により、誰かに配慮し、あたかも誰かが与益者、「彼」が受益者のように見せるからである。この場合、「サセテモラウ」は受益表現より、むしろ謙譲表現に近いと考える。そのために、このような恩恵利益を「他人配慮利益」と仮に言う。一方、次のような「サセテモラウ」文がある。

(6) 渡辺と高丸は蘆田川の溪流に沿う坂道を二時間あまり歩いて下り、魚断淵というところまで行くと木炭動力の空きトラックが来たので、頼んで便乗させてもらった。

訳：渡辺和高丸，沿着芦田川走了两个多小时的下坡路，来到一个叫鱼断渊的地方，看见开来一辆烧木炭的空卡车。经过交涉，才得以顺路搭车。

(6)では、「頼んで」によって、話し手が目の前の相手に対して働きかけて、相手が話し手を便乗させるということが表されている。そこで、この場合の恩恵利益は「働きかけ直接利益」と考えられる。

「働きかけ直接利益」「直接受動利益」「他人配慮利益」の「テモラウ」文においては、話し手が先行動詞 V の項になれるのに対し、「働きかけ間接利益」「間接受

動利益」の「テモラウ」文では、話し手が先行動詞の項にならない。さらに、コーパス調査で、“请”構文と対応する 48 例の「テモラウ」文では、「働きかけ直接利益」は 23 例で、「働きかけ間接利益」は 25 例であることが分かる。

以上の分析によって、「テモラウ」文の意味パターンにおいて、恩恵のありかたはさまざまな要素と関わっているが、恩恵利益が話し手の受け止めるものであり、恩恵利益の方向性がいずれも話し手に向けられるという共通点を持っていると考えられる。その恩恵利益のあり方に関わる要素を表 2 で示す。

表 2 「テモラウ」文における恩恵利益のあり方に関わる要素

関係要素 恩恵利益 のパターン	a 仕手の存在	b 仕手に動作をする よう働きかけるか どうか	c 仕手の動作から話 し手が直接影響を 受けるかどうか
働きかけ直接利益	○	○	○
働きかけ間接利益	○	○	×
直接受動利益	○	×	○
間接受動利益	○	×	×
他人配慮利益	×	×	×

4. 中国語の“请”構文の意味と恩恵利益のあり方について

3 節で述べたように、「テモラウ」文における恩恵利益は話し手の主観と緊密につながり、また「テモラウ」によって恩恵利益の方向性はいずれも話し手に向けられ、「仕手の存在」「仕手に動作をするように働きかけるかどうか」「仕手の動作から話し手が直接影響を受けるかどうか」の素性の有無によって四パターンに分けられるとまとめた。本節では、“请”構文の意味とそれにおける恩恵利益のあり方に関して分析を展開していく。分析対象である“N1 请 N2V”という構造を持つ“请”構文は呂叔湘他(1980)によるいわゆる「兼語式」の一つである。それについて、「このタイプの述語は前後にある二つの動詞の間に名詞がはさまれているものからなっている。この名詞は前の動詞の目的語であるとともに、後に来る動詞の主語でもあるのだから、兼語といわれている」と説明している。以下の例文を見ていただきたい。

- (7) 司机是中年人，态度很热情。八千代便请他开车送自己去三津。

訳：運転手は中年の親切そうな人物だったので、八千代はその自動車で三津まで送てもらうことにした。

- (8) 他已经糊涂得连自己也不知道怎样竟请白间山开了药方，从他房里走出。

訳：彼はもう頭がボーッとなくなってしまって、どうやって白間山に処方箋を書いてもらったのか、どうやって彼の部屋を出たのか、自分でもわからなかった。

- (9) 她便站起来请瑞珏替她打牌，说自己有事情要出去一会儿。

訳：彼女は立ち上ると瑞珏に替てもらって、ちょっと用事があるから行って来るといふ。

- (10) 于是，他去找旁边接管邮政局的军队的长官进行交涉，决心请军队动员士兵在医院南侧建造木质结构的临时病房。

訳：そこで隣の通信局を接收している軍隊の長官に交渉し、兵隊を動員して病院の南側へバラックの仮病棟を建ててもらうことにした。

(7)～(10)では、「八千代」「彼」「彼女」「彼」が“請”という動作を通して、それぞれ「運転手」「白間山」「瑞珏」「長官」に対して、「運転手が三津まで自動車
で八千代を送る」「白間山が彼に処方箋を書く」「瑞珏が彼女の代わりにマージャン
をやる」「兵隊が彼らの使用する仮病棟を建てる」といった動作を行うように謙遜
的に働きかけるということを表す。また、その動作の内容により、それらの動作が
いずれも話し手と関わりがあることが分かる。(7) (9) では、「送自己（自分を送
る）」「替她（彼女の代わりに）」といった補語によって、仕手の動作と話し手との
関わりが示されている。(8) (10) に関して、以下のように話し手が仕手の動作の
補語として現れれば、その関わりも明確になる。

(8)' 他 请 白间山 (给自己) 开了药方。
彼は てもら 白间山に 自分に/のために 処方箋を書く。

(10)' 他 请 军队 (给他们) 建造临时病房。
彼は てもら 兵隊が 彼らに/のために 仮病棟を建てる。

(8)′ (10)′ においては、補語「给〜」の補足によって仕手の動作の方向性が明確にされるが、その動作が話し手に恩恵利益をもたらすか否かが「给〜」だけでは判断しにくい。しかし、“请”の介入によって、それらの動作が話し手にとって恩恵利益になっていると言える。

(11) 我请他给我拉面里放了点盐。(作例)

訳：私は彼にラーメンに塩を少し入れてもらった。

(11)′ 他给我拉面里放了点盐。(作例)

訳1：彼にラーメンに塩を少し入れられてしまった。

訳2：彼がラーメンに塩を少し入れてくれた。

(11)と(11)′の比較によって、「给我 V」しかない(11)は恩恵かどうか文自体では決められないのに対し、「请…给我 V」の(11)′においては V という動作自体が話し手にとって恩恵利益の意味合を含み、迷惑の意味がなかなか読みとれないと考えられる。

以上の分析から見ると、仕手の動作と話し手との関わりとは話し手が話し手の所有物が仕手の動作の対象となったり、仕手が話し手のためにあるいは話し手の代わりに何かをしたりすることをさすことが分かる。言い換えれば、話し手が話し手の所有物が動詞 V の項である場合また構文上「给/为/替/話し手」という形で動詞 V の前に現れる場合において、仕手の動作と話し手との関わりが成り立つといえる。

一方、次のような“请”構文を見てみよう。

(12) 饭做熟了，我们壮着胆子请她们也尝尝。

訳：食事ができあがると、われわれは勇気を出して女将さんたちに勧めた。

(13) 赵微土客气地用手势请倪藻走在前面。“要爬到四层……”他说明道。

訳：趙微土は丁寧な身振りで倪藻を先に立たせ、「四階まで上ります……」といった。

(12)では、もしその食事を「われわれ」が作り上げたのであれば、「女将さんたちに食べてもらいたい」のような「テモラウ」文と対応できると考える。しかし、

実際の文章における文脈によって、「食事」を作り上げるのは「女将さんたち」であることが分かる。(12)では、「われわれ」はご飯を作ってくれた女将さんたちもおそらくお腹も空いているだろうと思ったから、女将さんたちも食べるように謙遜的に勧めているのであり、むしろここでは「女将さんたち」が実際の受益者であると思われる。また、話し手との関わりを示す「給／为／替／ 我们」を補えば、「女将さんたちが食べる」という行為が「われわれ」の利益であると見られる。それは元の文の意味とずれるために、いずれも認められない。従って、(12)においては、話し手は仕手の動作と何の関わりもなく、ただ謙遜的な働きかけを表すだけであると思われる。

(13)においては、「客气地」(丁寧な身振りで)によって、「趙微土」が「倪藻」に対して敬意を示すことがわかる。また“请”によって「先に立つ」ように謙遜的に仕向けることが表される。すなわち「先に立たせる」ことによって「倪藻」への敬意が表され、逆にその動作から「趙微土」が何かを得る意味合いがまったく読み取れないと言える。それは「给／为／替 趙微土」の介入によって、いずれも非文になることによって裏付けられると思われる。従って、(13)においては使役関係を表すにもかかわらず、話し手と仕手の動作との関わりがないため、「テモラウ」文と対応しないと考えられる。

以上の分析をまとめると、奥津・徐(1982)にも指摘されたように「N1 请 N2V」という形式の“请”構文において、中心的な意味特徴は謙遜的に他人に働きかけることであると思われる。一方、“请”構文に含まれる恩恵利益について、本稿では、もしN2の動作Vが話し手と関われば、その動作の発生は恩恵利益として話し手が受け止める。逆に、関わりがなければ、単に働きかけを表すのであると主張する。従って、“请”構文の意味に関わる要素は表3で示される。

表3 “请”構文の意味に関わる要素

関係要素 構文意味	a	b	c	d
	仕手の存在	仕手に動作を するよう に働きか けるか どうか	仕手に対する働 きかけに謙遜さ があるか どうか	仕手の動作と話 し手との関わり があるか どうか
使役かつ恩恵利益	○	○	○	○
使役のみ	○	○	○	×

5. 「テモラウ」文と“请”構文との対応およびそれについての検証

3 節と 4 節の分析をまとめると、「テモラウ」文の意味特徴においては、話し手がある仕手の動作の発生が自分にとってある種の恩恵利益と受け止めている。仕手の動作には、話し手の働きかけを受けて行われる場合もあれば、話し手とまったく関係がない中で、行われる場合もある。それに対し、中国語の“请”構文に関しては、その中心的な意味特徴は相手に謙遜的に働きかけることである。もし話し手が話し手と関わる動作を行うように仕手に働きかける場合、その動作の発生が話し手にとって恩恵利益であると考えられる。そうではない場合は単なる働きかけであり、恩恵利益は読み取れず使役しか表せない。

従って、「テモラウ」文と“请”構文の意味特徴を照合すると、話し手が、話し手と関わりがある動作を行うように仕手に対して謙遜的に働きかけ、その動作の発生が話し手にとって恩恵利益となる場合に両者が対応するという仮説が考えられる。

この仮説について、「中日対訳コーパス」からこれまで使われた例文を除いて、働きかけの意味を表す 100 例の「テモラウ」文を抽出し、検証を行った。検証の結果が表 4 のように示される。

表 4 仮説に対する検証の結果

A. “请”構文と直接対応する文	B. “请”構文と交換できる文	C. “请”構文と対応しない文
40	39	21

表 4 では、「“请”構文と直接対応する文」とは、「テモラウ」文と対応するのは本稿でいう“请”構文であることをさす。「“请”構文と交換できる文」とは、元の訳文を“请”構文に取り替えても文の意味が変わらないことをさす。「“请”構文と対応しない文」とは“请”構文の介入が認められにくいものをさす。つまり、A と B が「“请”構文と対応できる文」に属すると思われる。従って、仮説に従って表 4 を見ると、100 例では「テモラウ」文と“请”構文との対応率が 79%に達していると言えるだろう。それによって、上記の仮説には有効性が十分にあると考えられる。

5.1. “请”構文と対応できる文について

以下は“请”構文と対応できる文に関して説明する。

- (14) 僕は一日がかりで自転車の錆をおとし、油をさし、タイヤに空気を入れ、ギヤを調整し、自転車屋でクラッチ・ワイヤを新しいものにとりかえてもらった。

訳：我花一天时间把自行车的锈去掉，抹上油，给轮胎充气，调好齿轮，请自行车店把联轴节和车条更新。

- (15) 幸い秘書がいてくれたので、書かざるを得ない場合、私が下手な字で書いてそれを清書してもらっていた。

訳：幸好我有秘书在身边，因而在非写不可的时候，就只好用那拙劣的字来写，然后请秘书誊写一遍。

- (16) まず第一に相手を助けたいと思うこと。そして自分も誰かに助けてもらわなくてはならないのだと思うこと。第二に正直になること。嘘をついたり物事を取り繕ったり都合のわるいことを胡麻化したりしないこと。それだけでいいのよ。」

訳：“首先你要有帮助对方的愿望，同时也要有请别人帮助自己的心情。其次要诚实。花言巧语、文过饰非、弄虚做假都是要不得的。只这样就可以了。”

- (17) 「ワタナベ君に送てもらうわ」とハツミさんは言った。(括弧は筆者による)

訳：“(我请)渡边君送我一段。”

- (18) 「市民参加という言葉があるが、俺たちがやっているのは、そんなスタイルじゃない。俺たちが場を作って、そこに行政に加わてもらう、言わば『行政参加』なんだ」

訳：“人们常说‘市民参与’，我们要做的，得换个样。我们出题目，并且提供场所，然后争取(我们请)行政机关支持，这就叫‘行政参与’。”

- (19) ボクが跳ばなければならないのはもちろんだが、相手が引っ掛かっても NG (失敗)だ。そこで、ボクは運動神経のよいミヤちゃんに相手を頼んで練習してもらっていたのだ。

訳：本来我可以跳过来，但如果对方抡绳的节奏快了或慢了，都会导致失败。所以，我找(请)阿宫陪我练习，是因为阿宫的运动神经特别发达。

(14)～(16)では、話し手が仕手に対して働きかけることを表す。その働きかけを受け、仕手が「とりかえる」「清書する」「助ける」といった動作を起こす。また、それらの動作の対象はそれぞれ「僕の自転車」「僕の書いたもの」「話し手」であることから仕手の動作はいずれも話し手と関わりを持つことが分かる。(17)～(19)では、いずれも“请”構文に取り替えても意味が変わらない。また、「送る」「加わる」「練習する」の動作の対象はそれぞれ「話し手」「俺たちが作った場」「ボク」であり、話し手と関わりがあると言える。また、それらの動作の発生はいずれも話し手にとって恩恵利益となる。すなわち、(14)～(19)では、仮説と一致しているように見える。

さらに、(14)～(19)においては、前後の文脈によって、力が足りない話し手が力を持っている仕手に対して、あることを頼むという意味合いが含まれ、話し手が仕手より弱い立場に立っていることが分かる。弱い立場に立っている人が強い側に頼むとき、謙遜的な言い方をするのが普通であると思われる。中国語では、“请”にはそういう機能があるために、以上の例文の訳文に“请”構文の介入が認められると考えられる。

5.2. “请”構文と対応しない文について

一方、“请”構文と対応しない「テモラウ」文は以下のものである。

(20) 若者にこそしっかりしてもらわなければ会社も国も将来が危うくなる一。

訳：唯有使年轻人严格要求自己，公司和国家才有希望。

(21) 大蔵省はこれまでずっと日本の金融機関を守ってきた。ある金融機関の経営が悪化すると、すぐさま大きな銀行に吸収か合併してもらうよう指導し、深刻な金融不安をひきおこさないようにした。

訳：大蔵省至今为止一直保护着日本的金融业。一旦某金融机构的经营恶化，大蔵就立刻命令它与大银行合并，以免引发严重的金融恐慌。

(22) まさに絶望的な状態だった。日本人すべては、明日の自分はどうか不安だった。だが、その中でも確実に活動しているものがあつた。政府は炭鉱労働者に食糧配給量をふやして石炭を掘ってもらった。

訳：日本人简直陷入了绝望的境地，人们都为各自的明天而感到忐忑不安。可是，在这种形势下也确实有那么一部分人在按部就班地工作。政府给煤矿

工人增加了粮食的定量，让他们挖煤。

(20)～(22)では、「テモラウ」文はいずれも働きかけの意味を表す。しかも文の主体も仕手の動作と関わりを持っていることが分かる。(20)においては話し手が会社と国の立場に立って、「会社と国の若者がしっかりする」という動作から、(21)においては、銀行の管理機関としての「大蔵省」が「銀行が合併する」という動作から何らかの影響を受けている。(22)では、労働者が掘った石炭の持ち主は「政府」であり、やはり「政府」が「石炭を掘る」という動作に関わっていると言える。従って、仮説と照らし合わせて、“请”構文と対応するべきだが、筆者の内省では、(20)～(22)の訳文を“请”構文に変えると文の座りが悪くなると思われる。

前に述べたように、“请”構文においては謙遜的に働きかけることが最も中心的な意味である。謙遜的というと、働きかける人は働きかけられる人より弱い立場に立つのが普通であると考えられている。しかし、(20)～(22)においては、「会社と国」「大蔵省」「政府」は「若者」「銀行」「労働者」に比べ、いずれも強い立場に立つものである。この場合、働きかけには強制的な命令の色彩が濃くなってくる。“请”の謙遜的な意味と衝突しているために、“请”構文に対応しないと思われる。

5.3. まとめ

以上の分析に基づくと、日中翻訳上「テモラウ」文と“请”構文との対応規則は以下のようにまとめられる。

- ①話し手が仕手に働きかける。
- ②働きかけられる仕手の動作が必ず話し手と関わる。
- ③仕手に対する話し手の謙遜的な態度がある。

6. おわりに

本稿では、日本語の「テモラウ」文と中国語の“请”構文の意味特徴をそれぞれ分析し、その共通点と相違点を究明した上で、日中翻訳上両者の対応仮説を立てた。さらに、実例によって、その仮説を検証し、修正して、日中翻訳上「テモラウ」文と“请”構文との対応規則をまとめた。本稿では、従来の先行研究では使役の面のみから「テモラウ」文と“请”構文を対照しているのに対し、使役に加え、先行研究に指摘されていない両者における恩恵利益のあり方およびそれに関わる要素に関しても分析を行い、「テモラウ」文と“请”構文との対応条件を明らかにした。

本稿では、(6)のような「働きかけ直接利益」を表す「サセテモラウ」文の中訳を“请”構文と取り替えることができると考えられるが、(23)では、“请”構文との対応が成立しにくい。それは「サセテモラウ」には「働きかけ直接利益」と「他人配慮利益」の区別が曖昧であるからと思われる。これについては今後の課題とする。

- (6) 渡辺と高丸は蘆田川の溪流に沿う坂道を二時間あまり歩いて下り、魚断淵というところまで行くと木炭動力の空きトラックが来たので、頼んで便乗させてもらった。(再掲)

訳：渡辺和高丸，沿着芦田川走了两个多小时的下坡路，来到一个叫鱼断渊的地方，看见开来一辆烧木炭的空卡车。经过交涉，才得以顺路搭车（请司机让他们搭了顺风车）。（括弧内の内容は筆者による）

- (23) 杏子は戸外で休んでいる学生に茶を運んだ時、(?彼らに頼んで)彼らが持っている荷物に触らせてもらった。

訳：给门外休息的学生送茶时，她摸了一下他们携带的行李。（??请学生让她摸了一下他们携带的行李。）

また、本稿の対象としなかった「てもらえないか/ていただけませんか」および「てくれないか」「てくださいませんか」など依頼表現を表す文と“请 V”の依頼文との対照も視野に入れ、研究を進めていきたい。

参考文献

- 奥津敬一郎・徐昌華（1982）「「テモラウ」とそれに対応する中国語表現 — “请”を中心に—」『日本語教育』46号 日本語教育学会 p.92-104
- 王婉莹（1998）「「せる・させる」「～てもらう」「～ように言う」の日中語対照研究 — 中国人学習者の習得面から—」『日本語教育』99号 日本語教育学会 p.36-47
- 王燕（2004）「テモラウ構文の外的連関について — 中国語母語話者を対象とする日

『筑波日本語研究』 第二十号 筑波大学 人文社会科学研究所 日本語学研究室 2015

本語教育の立場からー』『21世紀言語学研究 鈴木康之・教示古希記念論集』白帝社 p.243-262

高見健一・加藤鉦三 (2003) 「受益表現の新展開 (5) 「～てくれる／もらう」表現の基本的意味」『言語』32巻5号 大修館書店 p.96-101

中島悦子 (2007) 『日中対照研究ヴォイスー自・他の対応・受身・使役・可能・自発ー』おうふう

仁田義雄 (1991) 「ヴォイスの表現と自己制御性」『日本語のヴォイスと他動性』くろしお出版 p.31-57

益岡隆志 (2001) 「日本語における授受動詞と恩恵性」『月刊言語』30巻4号 大修館書店 p.26-32

松下大三郎 (1930) 『改撰標準日本文法』中文館

松浦とも子 (2003) 「「使役型でもらう」構文の日中対照研究ー中国母語話者の授受表現における母語の影響ー」早稲田大学日本語教育研究 p.111-124

楊凱栄 (1987) 『日本語と中国語の使役表現に関する対照研究』筑波大学人文社会科学 (言語学) 博士学位請求論文

吉田妙子 (2012) 『日本語動詞テ形のアスペクト』晃洋書房

許明子 (2000) 「テモラウ文と受身文の関係について」『日本語教育』105号 日本語教育学会 p.1-10

呂叔湘他 (1980) 『現代漢語八百詞』商務印書館
用例出典

中日対訳コーパス 2003 北京日本研究センター

[付記] 本論文は、2013年度西南大学「中央高校基本科研究業務費プロジェクト (supported by “Fundamental Research Funds for the Central Universities”) 批准番号: 2120120946」の段階的成果であり、2015年8月21日に上海外国語大学で行われた「第七回漢日対比言語学シンポジウム」において口頭発表した内容を加筆、修正したものである。シンポジウムで有益なコメント

「テモラウ」文と“请”構文との日中翻訳規則について（譙俊凱）

を下された方々および研究発表の授業で貴重な意見を下さった矢澤先生をはじめ研究室の皆様へ感謝の意を申し上げます。ただし、論考における不備はすべて筆者の責任である。

ショウ シュンガイ／西南大学外国語学院
(2015年10月31日 受理)